

## 単元名 水遊び

配当時間 10時間

- 単元の目標 (1) 水の中を移動する運動遊びでは、水につかって歩いたり走ったりすることができる。また、もぐる・浮く運動遊びでは、息を止めたり吐いたりしながら、水にもぐったり浮いたりすることができる。
- (2) 水の中を移動したり、もぐったり浮いたりする簡単な遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができる。
- (3) 運動遊びに進んで取り組み、順番やきまりを守り、誰とでも仲よく運動をしたり、水遊びの心得を守って安全に気を付けたりしようとする。

## 標準的な展開例

01100104\_001

【準備等】 ビート板、フラフープ、基石、切ったホースなど

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～3 水遊びのねらいと内容を理解し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習のねらいや進め方を知る。</li> <li>★水遊びを楽しもう。</li> <li>○マナーや安全な運動の仕方について知る。</li> <li>○水慣れをする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・電車ごっこ、水かけっこ、鬼遊びなど</li> </ul> </li> </ul> <p>4～6 水に慣れ親しむ水遊びをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○まねっこ遊びをする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・えさをとるあひるさん、水浴びするぞうさん、あわをふくかにさんなど</li> </ul> </li> <li>○じゃんけん遊びをする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・負けたら水に顔をつける、水中じゃんけんなど</li> </ul> </li> <li>○電車ごっこをする。</li> </ul> <p>○反省し、まとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しかったこと、できるようになったことなど</li> </ul> <p>7～10 水に浮いたりもぐったりする水遊びをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○タクシーごっこをする。</li> </ul> <p>○宝探しごっこをする。</p> <p>○反省し、まとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○第10時には単元のまとめも行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全に気を付けて水遊びを楽しむことを知らせる。</li> <li>・プールのきまりをしっかり指導する。</li> </ul> <p>・まねっこ遊びを通して、「歩く・走る」「顔をつける」「息を吐く」などの動きを身に付けさせる。</p> <p>・じゃんけん遊びを通して、「顔をつける」「目を開ける」などの動きを身に付けさせる。</p> <p>・5～6人グループで行い、先頭が運転手、最後尾が車掌となり、車掌に指示を出させる。</p> <p>・ビート板を置いて障害物にしたり、フラフープを置いて水中トンネルにしたりする。</p> <p>・電車ごっこを通して、「歩く・走る」「水に顔をつける」「目を開ける」「息を吐く」などの動きを身に付けさせる。</p> <p>【評】きまりを守って楽しく水遊びをする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・2人1組で行い、タクシー役の児童は、自分の手のひらにもう1人（お客さん）の手を乗せ、決められた場所まで運ぶようにする。</p> <p>・お客さん役の児童は、体の力を抜き、浮いた状態を体験させ、慣れたら手を離させる。</p> <p>・顔を水につけられない場合は、あお向けにした状態で下から手で体を支えて運ばせる。</p> <p>・タクシーごっこを通して、「浮く」「水に顔をつける」などの動きを身に付けさせる。</p> <p>・基石など沈むものを置き、もぐって探させる。</p> <p>・宝探しごっこを通して、「水に顔をつける」「目を開ける」「息を吐く」「浮く」などの動きを身に付けさせる。</p> <p>【評】水遊びを通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・感想の発表や自己評価などをさせる。</p> <p>【評】感想の発表や自己評価を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p>

## 【 備 考 】

※学校の実態に応じて時間数を柔軟に変更してもよいこととする。

水遊びは、児童にとってとても楽しみにしている運動の一つであるが、水に恐怖心を抱いている児童もいる。展開例では、児童が自然に水中で「歩く・走る」「水に顔をつける」「目を開ける」「息を吐く」「浮く」動きを体験できるような楽しい水遊びを設定した。そして、この技能を使って行う水中ゲーム大会につなげる。

&lt;運動遊びが苦手な児童への配慮の例&gt;

- ・より浅い場所で歩いたり、しゃがんだ姿勢でゆっくりと移動したりするなど、段階的な遊び方を工夫する。
- また、友達の後ろに続いて移動したり、手で水を力強くかいたりすることを助言する。
- ・少しずつ顔に水がかかるようにシャワーを浴びたり、顎→口→鼻→目へと徐々に水につける部分を増やしたりする。
- ・もぐる遊びでは、輪の深さや数を変えたり、二人組で手のトンネルをつくったりしてくぐらせる。
- ・浮く遊びでは、息を大きく吸って止めたり、顎を引いて頭を水の中につけたり、無駄な力を抜いて体を真っ直ぐにしたりすることを助言する。
- ・バブリングでは、手の平にすくった水を吹き飛ばしたり、水面に浮いたものを吐いた息で移動させたりするなど、顔をつけずに息をまとめて強く吐くことのできる遊びをする。